

巖谷小波日記 翻刻と注釈

——明治三十七年（四月～六月）——

小波日記研究会

《まえがき》

ここに翻刻する巖谷小波の資料は、明治三十七年「当用日記」の四月一日から六月三十日までである。翻刻にあたっては、従来と同様、原則として削除された箇所は省き、削除されていない文字はすべて翻刻するように努めた。

平成二十四年十一月三十日

猪狩 友一

木村八重子

竹田 修

中川理恵子

(五十音順)

《本文》

四月一日(金) 曇

九時出勤、少年臨時桃太郎脱稿渡す

午後三時 盧来訪 即石橋と三人にて浅艸

二赴き、花やしき珍世界見物 去て上野

揚出し食事、盧二分れ 余と石橋とは

梅川楼、丹陵、廣業二氏従軍送別會

に臨む 九時帰る

(入) 15,000

(出) 梅川 2,500

弁当 3,24

四月二日(土) 曇

朝麻田氏来 徳田氏不信任の件

朝 一番町益満氏持家見分 11.33 四谷清水氏ヲ訪ふ夫人二會

永田町倉知氏ヲ訪不在、益満氏の家を紹介す 十一時出勤

午後三時平野屋二麻田氏と會 対徳田の件

五時帰

夜 元園町ヲ訪 冬生、生田居合 十時帰

(入) 中央公論 10,000

四月三日(日) 晴

朝木村元雄、日下部金三郎来 辻氏来

後藤牧太氏来 言文一致會の為演説二十号の依頼

午後一時 加藤ヲ訪、不在 呉服橋内

東西合併角力二赴く 館友数名同席

四時後打出し それより 兼松大尉ヲ訪ふ

夜 種好塾、浅岡、山田、築山、等歓迎

及上田氏送別 九時帰

(出) 種好 1,000

【注】*後藤牧太…理科教育の先駆者、東京高等師範学校教授(一八五三—一九三〇)。*言文一致會：明治三十三年、帝國教育会内に成立し、言文

一致運動を推進。「言文一致會の会誌」(明治三十五年二月)によれば、明治

三十三年五月十五日の例会で、「名家を招いて言文一致に関する苦心談をきく

こと」などの方針が決められ、三十四年一月には第一回公開演説会が催された。

*二十号：この文字は右に寄せてやや小さく記されている。*東西合併角力

…東京と大坂の相撲が合併して興行。前年の明治三十六年に常陸山と梅ヶ谷(二

代目)が横綱免許となり、「梅・常陸」の黄金時代が到来した。国技館の完成

は四十二年。

四月四日(月) 曇雨

朝筒井氏来写真、西彦、小林義次(渡米少年)

及河上氏ヲ伴来訪

十一時出勤

午後四時帰途文光堂、画料求む、ツリ忘れ

再び取りに

遣はず

(出) 文光堂 3,15

四月五日(火) 雨

午前八時発、霊岸島向鹿野山、*中学世界誌友會
大町 石橋、松原、長谷川、鹿野 鷹野、寺崎
劍持 鷺尾、少女、琵琶歌、寶田ら 他に中学
生三十名斗
十二時桜井着 中食 歩して鹿野山丸屋二投
夜 講演會 親睦會

【注】*霊岸島：明治二十二年創業の東京湾汽船（現在の東海汽船）が、霊岸島から房総方面に定期航路を開いていた。 *鹿野山：房総半島中南部の山。山頂から九十九谷が眺望でき、また聖徳太子の創建と伝える神野寺や、日本武尊を祀る白鳥神社がある。 *中学世界：博文館の投書雑誌。明治三十一年創刊。

四月六日(水) 晴

八時出宿、神野寺、九十九谷、白鳥神社等見物
十二時桜井中食、一時出帆 風波船鞆
五時後霊岸島二着 解散、後館友來
寶と借菜園食事 九時帰
柳原伯來 新夫人の件

【注】*船鞆：船酔い。

四月七日(木) 晴

欠勤休養
朝盧ヲ訪ふ、
午後 木佐金一來、出雲の人 十六才、文学修行の爲
上京、寄食を求む 按摩、青柳氏來
夜木曜會 画業(長岡) 俳句等、
加藤來

四月八日(金) 晴

九時出勤 自本日晝替
午後四時帰、永田氏來 柳伯の件
次で青柳猛氏 長州人 永富探女ヲ伴ひ來
保証、入門の件
五時桂舟による 木沢及大橋夫人居合す

六時下谷武蔵屋二赴く 岡田、寺崎村田
石橋後寺崎門三浦らと會す

四月九日(土) 晴

九時出勤 *三番町賣家紹介礼二
午後四時帰 一寸家を訪ふ、それより元園町藤井
居合す 加藤一寸來
夜に入り帰宅入浴
今日秋聲會欠席 俳稿のみ遣はす

【出】点燈譚 2,00

【注】*三番町賣家紹介礼二：この一行は行間に記されている。左側の「一寸家を訪ふ」の補足か。

四月十日(日) 晴

午前在宿 「得雅を相馬氏二遣はし赤坂新坂の借家の件」
午後一時石橋二より共に 歌舞伎座 やまとより
見物 歌舞伎社連中

狂言校御所、鷗外氏日蓮聖人辻説法、及日露戦
十時帰 横濱にて帰朝途次の藤沢延分宛の
よし二つき 元園町に赴キ相談

【出】かぶき 2,00

【注】*鷗外氏：この文字は右に寄せてやや小さく記されている。

四月十一日(月) 曇

欠勤 木佐生ヲ招き本日より寄食を許す
九時半新橋発 横濱二向ふ(神奈川) 津久井
より(人車)
屋三藤沢ヲ訪ふ 母子健全、直に帰り停
見舞贈り

車場中食、帰京 一寸元園町により 更に
岡田方二赴く 白人會、看校會、會
員の他更に、塚本、寺尾、田中、石橋らを加ふ
九時帰る

〔出〕 濱行費 2,000

〔注〕 *神奈川／より人車：この部分、丸カッコで囲み、一行の野線内に二行書き。
*見舞贈り：この部分、次の「元園町により」と同じ野線内右側にやや小さく記されている。前行「母子健全」の後に入るべきものか。

四月十二日(火) 晴

朝永富操女の為め英學塾入學保証
九時半新橋に寺崎廣業氏の從軍を送る
後出勤 女學原稿
午後四時帰途桂舟により画注文 五時帰
夜無事

四月十三日(水) 晴

朝八時半出勤
午後一時前外務省に盧ヲ誘ひ 共に華族幼稚園
參觀後 永田町に 廣瀬中佐葬儀を
送る 砲車、海軍式葬 悉練、二時帰
四時後 盧来又 西彦来
夜盧ヲ訪ひ 共に趙町天神散步玉遊 九時後帰
〔入〕 女學 10,000
〔出〕 勇へ 10,000

四月十四日(木) 曇夜雨

早稲田出勤 十二時帰
午後読書、太陽雜録艸
夜木曜會 十時散

四月十五日(金) 曇涼夜雨

朝八時半出勤 太陽雜録及文藝、
午後四時帰
夜春生来食後去 入浴
〔入〕 太陽 10,000

四月十六日(土) 雨

朝九時前出勤 森貞 永井天橋、麻田ら来訪
午後一時東片町大円寺 齋藤緑雨氏葬式二會
四時帰る 机方向を変す
夜 杉内来

四月十七日(日) 曇晴

午前在宿
午後一時 早稲田大学運動會に赴く 五時帰
夜無事
〔出〕 早運動會 1,000

四月十八日(月) 曇

朝八時半出勤
午後三時 三井に久保田ヲ訪原稿渡 和田と會
陳列場見物 後富士見町五丁目到家
屋二ヶ所見分、田中松太郎氏により五時帰
麻田来 裏方写真及其他の件の謝礼持参
夜 元園町ヲ訪ふ
〔旅順海戦及決死隊稿料50は貯金の中へ編入の事
内山〕

〔入〕 西本願麻田より 30,000
〔出〕 勇へ 30,000

四月十九日(火) 晴

九時出勤
午後五時帰途 学士會中教育研究會に赴く
會食、十時帰
〔出〕 教研 1,000

四月二十日(水) 雨

九時出勤 世伽第五十七碑
午後 四時帰途斬髮
夜生田来
九時、山本夫人、盧に誘はれ女学館

に赴く 恤兵音楽會 洋劇及コンツェルト
十二時帰

四月二十一日(木) 晴
欠、

午前女学小説艸
午後三と半象まで散歩 午後水富操女史来
夜木曜會、黒田自朝鮮帰朝
大橋夫人来訪
【二行先き】
大羽へ世伽シベリヤの分注文

四月二十二日(金) 晴

九時出勤
午後四時帰途廬を訪ふ 五時帰
夜黒田来

四月二十三日(土) 晴

九時出勤
午後二時言文一致會(教育會内) 二赴き余
(言文一致実験談) 平井金三、金沢、向島
坪井三博士演説 六時後日盛軒
會食 九時帰
【出】 日盛軒、50

四月二十四日(日) 晴風

午前坪内氏紹介山崎寿子嬢来志摩豪家の一女
文学志願の由 生田来
午後一時桂舟ヲ訪 後柳原を訪不在
和田の画室ニより 帰途辻氏ヲ訪
五時より来 入浴
【二行先き】
松野夫人より其親戚チーテルマン嬢(記者)の吉原
行同行を依頼されしが之を辞す

【出】 生田へ 1、50

四月二十五日(月) 晴風

朝八時出勤 森貞二郎来館 *キヤウチより徳華□□
支配人雇人の件

午後四時帰る
夜勇、三二、鍵二郎と天神縁日散歩

【注】 *八：「九」の上に「八」を重ね書き。 *キヤウチより徳華□□…この部分、読み・意味ともに不明。また、この部分は次の「支配人雇人の件」と並び、一行の野線内に二行書き。

四月二十六日(火) 晴

午前元園町に赴く 藤田高之、安達、馬渡
氏同席 壬午銀行書替捺印(債主 200
内山市左エ門)

十一時後出勤
午後五時平野屋ニ赴く 木曜會 湖山
歓迎會々者十六名 九時帰

【注】 *債主 200/内山市左エ門…この部分、丸カッコで囲み、一行の野線内に二行書き。

四月二十七日(水) 雨

九時出勤
午後四時帰
夜無事
福田へ電為替

四月二十八日(木) 朝曇午後快晴

十時早稲田出勤 其前盧ヲ訪 水野依頼の不
明齋の額渡す
午後 永井天橋来 報知大小説引受の件
又仙臺曉声會福島一郎来 講演の件
夜木曜會 其前夕方井上折山来
【入】 早稲 15、00

〔出〕 勇へ 15,000
肖像 5,000

四月二十九日(金) 曇晴風

九時前出勤

午後四時帰途十軒店索見

夜桜井義肇氏来 新公論へ言文一致説掲載

の件

夜九時 父上来訪

〔一行空き〕

金州丸遭難号外

〔入〕 120,000

〔出〕 勇へ 120,000

〔注〕 *桜井義肇：浄土真宗本願寺派の僧（一八六八—一九二〇）。『反省会雑誌』（『中央公論』の前身）を創刊。「新公論」は明治三十七年一月に「中央公論」から分立して創刊された。 *金州丸遭難：軍隊輸送中の金州丸は、明治三十七年

四月二十五日、ロシアのウラジオストク艦隊に元山沖で撃沈された。

四月二十五日、ロシアのウラジオストク艦隊に元山沖で撃沈された。

四月三十日(土) 朝雨午後晴

午前在宿欠館 読書

午後一時半婦人教育會(婦人の力) エスト嬢

四時前森無黄氏方に赴く 小俳席

鳴雪、松宇、素竹、酔月ら来

六時去て松野氏方にチーテルマン嬢を訪 四十

後年の女記者也

夜在宿

五月一日(日) 午後雨

午前来訪者 徳田秋江、又西彦太郎来

午後 岩井さだ子、木村小舟、武内蝶子女史ら来

三時、日下部兄公を訪 野口幽香氏新居を訪ひ

又元園町を訪ふ、堀竹雄、西岡英夫、冬生

ら居合、食後閉基九時帰

〔一行空き〕

本日窪田氏母堂来訪 玉子折

〔注〕 *野口幽香：教育者（一八六六—一九五〇）。明治三十三年、森島みねとともに越前に二葉幼稚園を設立。

五月二日(月) 雨

九時出勤

四時帰 チーテルマン嬢へ博文館諸雑誌ヲ贈る

陸軍大戦九連城占領、我死傷七百名

の号外出づ

五月三日(火) 晴

八時後出勤

午後四時後青山清水氏方に三好未郎ヲ訪ふ

一寸上京、清水、丑郎氏らと夕食

九時帰

五月四日(水) 晴

朝福田、長田来訪

十時前出勤

午後二時四五分新橋に三好の帰西を送る

再び館へ帰る

四時 西彦太郎氏ヲ訪 両親に會す又

中形反物数反求む、市田弥五郎

氏来合 夕食後 九時帰宅

五月五日(木) 朝雨午後晴

十時早稲田出勤 十二時帰

午後画葉

夜木曜會、画葉及 俳句、

加藤晴及 宮川春汀来

又神戸岩崎氏紹介 小西利吉氏娘房子

来訪 淑女学校入學保証及入門の件

五月六日(金) 晴

午前九時出勤 年方を訪不在日露戦史画注文、十時太平洋
午後桂舟を訪不在 画會見物

夜六時後都築氏ヲ訪、藤田四郎氏居合、九時帰

〔出〕竹^{*}工^{*}堂^{*} 7、50

〔注〕*竹工堂：「竹」と「工」の間に余白あり。
竹^{}工^{*}堂^{*}：□の文字は不明。「工」とは別字と思われる。

五月七日(土) 晴

三七

朝七時半四谷発立川に向ふ、和田、南岳、春生同行

日野玉川亭に天下、四丁二氏と會合、近傍

写生、中食、年峰後より來會

七時後汽車にて青梅に向ひ 坂上に投宿

滝島寛水、大島凡水、小林珠郎、横川長秋ら

來談

五月八日(日) 晴

午前つ、じ山見物 写真 後天下氏方に小憩

河原写生 二時中食

午後三時二十一分発帰京

今日大提灯行列

〔出〕青梅費 2、00

五月九日(月) 晴

九時出勤 西彦へ浴衣地代届る

午後一時 小泉又一氏妻女葬送青山

紅葉、廣瀬中佐墓参 三時後帰

五時福田来又西彦太郎、河上氏来

〔出〕浴衣代 8、45

五月十日(火) 晴

九時出勤 其前藤江来博文館看板周旋依頼

午後四時去つて 吾妻橋札幌ヒーヤに赴く

白人會 北里幹事、十時帰

本日 郷誠之助氏へ提灯行列変死の見舞

神保町カバン求

〔入〕明お伽 10≒/40、00

〔出〕カバン 3、000

〔注〕*提灯行列変死：「時事新報」(明治三十七年五月九日)は、祝捷大会の行列で、馬場先橋に詰めかけた群衆で事故があり、死亡者十九名と伝える。

五月十一日(水) 晴

九時前出勤

午後三時 牧野望東に點燈講金届しめ

富士見町に家を見、桂舟画注文 五時帰

年方來食後去る

〔出〕点燈 2、000

勇へ 5、000

〔注〕*牧野望東：俳人(一八七六～一九二三)。

五月十二日(木) 暖風夜雨

早稲田登校 其前廬により明日本郷座行切符渡

十一時半帰途元園町により父上春生分本郷

座切符渡す 二時帰

三時福田来 食後去 荒浪来

又 永富来

夜木曜會 年峰、大岡竜男来

五月十三日(金) 曇 涼

九時出勤

四時帰

廬来共に食後本郷座の屋より見物 父上春生後より

石橋一家隣席、川上の招待

戦況報告演劇 及催眠術

十一時半帰

〔出〕春の屋 2、000

〔注〕*春の屋：芝居茶屋。 *川上：川上音二郎。

五月十四日(壬) 雨

八時出勤
午後四時帰 山田春塘より壬生面
夜無事

五月十五日(日) 雨午後晴

午前來訪 早稲田揖斐、竹貫、生田、春、冬及
廬氏

午後徳田來、又廬來三時共に遊就館
九段パノラマ見物 小川町買物 それより
分れて 学士會に 動物虐待防止會
に臨む、岡本氏支那談 九時帰

(出) 動物會、61
後玉遊
画具鉛筆、65

【注】*三：先に「五」と書き、「三」と改めたようである。

五月十六日(月) 晴

朝渡邊修二郎來
九時前出勤
午後四時後莊司髭剃、外務省廬ヲ訪ひ
後紅葉館に赴く 兼松、吉田両大尉及
廬と會飲 十時帰途に提灯行列
を見る

五月十七日(火) 晴曇

今朝富森等氏逝去の報を聞く
出勤前元園町により、又富森氏へ弔電
午後四時帰 蓑田春堯翁來琵琶歌の件
夕方散歩 元園丁により帰

五月十八日(水) 風曇晴夜雨

九時出勤

午後三時後 川田豊吉氏ヲ訪不在 夫人ニ會
五時前 高田早苗氏ニ赴く 九月以後
早稲田大學授業相談、及晚餐
十時帰

五月十九日(木) 快晴

十時出勤(早稲田) 中食後 本郷 岡田、麻田ヲ
訪不在 近角を誘ひ 二時箕作元八
氏ヲ訪ふ 日露戦史につき相談 五時帰
田所町 深田氏來 □□附画葉書口條
依頼

夜木曜會 画葉(初夏)
本日大掃除 及俳

五月二十日(金) 晴

九時前出勤 久我氏來館、三一への玩具持參
午後四時帰
夕方 西彦來食後九時去る
【一行空き】

去十五日 初瀬(水雷) 吉野(衝突) 両艦沈没
大佐以下死傷七百名の報あり可悲

五月二十一日(土) 曇雨

八時後出勤
午後一時 長谷川氏と太平洋画會及美
術研精會見物 帰館 四時帰
夜 赤坂來又木佐にも旧稿示す

五月二十二日(日) 晴

午前來訪 歌川、高橋伍平他一人、前田不二三
午後一時お茶の水高等女学校運動會
に赴く 西彦招待
五時後帰途日本社古島ヲ訪ひ青木廣の件
依頼、六時帰 直二 富士見軒ニ赴く

兼松招待、吉田同席 九時帰 芹沢来

五月二十三日(月) 曇

八時出勤 歌川来
午後四時

夕方勇、三二と散歩 後一人元園町による 春生の友

小花氏に會す

九時前帰 辻氏居合

〔入〕 明伽12 40,000

〔出〕 勇へ 10,000

五月二十四日(火) 雨

九時出勤

午後四時帰宅

夜無筆

五月二十五日(水) 雨

八時出勤

午後四時帰

仙臺暁声會より旅費、講演廿八廿九兩日と決す

〔入〕 旅、仙 10,000

五月二十六日(木) 雨午後晴

九時半早稲田出勤 十二時帰

午後川田文字来 写真、日記渡す

永富女史来 原稿返

西彦母氏来

夜木曜會 此間 □地氏来間野俊対

玉井の件

〔入〕 黒田より返 10,000

五月二十七日(金) 曇

九時出勤

午後入浴、後 七時三十分上野発向仙臺

生田、千葉同行

〔出〕 汽 4,37

其他 50

五月二十八日(土) 晴

朝五時半仙臺着 暁声社友等出迎 投陸奥ホテル

午前一睡、奥羽新聞社員ら来訪

午後 二時半 五城館講演 来□四百名

少年文学に付て(余)千葉(劇の改良)生田(作者と読者)

五時半散後 ホテルにて 暁声の社員及

校長ら茶話會 夜散歩

【注】*夜散歩：この左側に「三文字ある〔ア〕〔レ〕と見える」が、資料の裏写りが強く判読困難。

五月二十九日(日) 雨後晴

朝九時 医学専門学校内 独乙協會校友會

に臨む 小高、島医学士、杉谷文学士 石原氏

其他 二十余名 小談 後 向五城館

第二回講演會 四百名

美術的文学と工芸的文学(千葉)黄禍説(生田)

□想と文学、 十二時散

午後一時発暁声社員の案内 向松島

馬放島、扇谷、後瑞巖寺、松島ホテル食事

夜九時廿分 松島発帰京、月明

〔出〕 汽 5,000

五月三十日(月) 曇

朝八時上野着 直帰宅 一睡

午後出勤 四時帰

夜 華族會館津軽氏招待に臨む

五十余名 独公使館員 フォグトに會す

九時歩帰(廬、大村、白鳥らと)

〔入〕 120,000

早 15,000
文げい 13,000
〔出〕 勇へ 135,000
生田へ 10,000

五月三十一日(火) 曇

朝 父上ヲ訪 後 六方館に雨森ヲ訪ふ 金子の件
十二時出勤
午後 西来共二三井買物又同人の為めカバンや
同行 帰途丸善買書
四時帰 高階、小峯来
夜勇、三ーらと四谷ニ赴き 元園町贈品ランプ求
帰途一寸元園丁ニ寄る(余のみ)
〔出〕 高へ 15,000
襟飾 1,000

六月一日(水) 晴

八時後出勤 少年日露戦史起脚
午後二時 島谷部、国分、石橋、長谷川、竹貫らと乙羽
氏墓参 四時半帰途牛込 月花園ニ赴く
朗読會、水口、東儀、徳田、不破、廣田、
坪内氏来話 十時後帰
〔出〕 朗読會、75

六月二日(木) 曇晴

欠校
終日在宿、日露戦史
午後永富来
夜木曜會 画葉、雨

六月三日(金) 晴

八時出勤
午後 三時元園町父上ヲ訪ふ 依田翁来共談

食後辞帰 一寸武内を訪

六月四日(土) 晴

八時出勤
午後四時帰入浴
後 紅葉會に赴く 津軽氏歓迎會々者五十余
十一時帰
〔入〕 女学其他 19,500
〔出〕 岡田へ 5,000
寺崎送別等 立替 5,000
〔注〕 *19,500:書き直しが有り判読困難。「19」は「11」、「50」は「00」とも見える。

六月五日(日) 晴

朝 年峰来 又 麻田氏来
九時半 勇、三ーと番町教會に赴く子供の日
お伽話 正午帰
午後一睡 二時、廬来共に音楽学校
演奏會に赴く オペラ、オルフォイス
散後 姉崎、沢柳、廬、藤代、美濃部、吉武、
溝淵、下田氏らと精養軒食事 九時帰
〔入〕 中央公論 10,000
〔出〕 精養軒 1,500
教會 50

六月六日(月) 雨

八時後出勤
午後三時控訴院に坂本三郎氏ヲ訪ふ 津軽
池田、廬氏と共に院内参観 後坂本
氏より根岸の宅に招かる 夕食 十時帰

六月七日(火) 曇晴

朝 青木廣士郎来、金件

朝西久保茸手町の家を見 出勤後勇に見せしむ

午後四時帰途帽子(よし野屋)求

夕方 父上ヲ訪ふ 山本復一氏及市原氏来台

又片岡市蔵来

此間高階来 召集に応ず 旅費貸

〔出〕 高階 10,000

六月八日(水) 晴

朝八時出勤 少年日露戦史第一脱稿

夕方 日下部兄公ヲ訪 父上及長崎武英氏

(訪廬不在) 来合はず

六月九日(木) 晴

早稲田出勤

午後 青柳又永富女史来

夕方 高橋桜洲来『江戸ッ子』の件 芦川忠雄来

夜木曜會

小西房子来 淑女学校不取締の件退学

相談

六月十日(金) 晴

朝製本注文 出勤

午後四時 上野三丁目白人會々者十七名

十時 電車にて帰る

〔入〕 画報 20,000

〔出〕 勇へ 5,000

白人會 1,100

六月十一日(土) 雨

八時後出勤

午後一時前丸木に西彦と會 写真それより靈南坂

會堂に赴 為傳導學校演説(嘘の説) 島田三郎氏

同席 後五時 大岡氏に招かる カ氏其他*

中央社員青年画家、桂舟、思案、

南岳田中松ら同席、十一時後帰 ○*

安川政次郎の死を聞き石橋氏ニ托香奠

〔入〕 中学 8,000

〔出〕 写真 2,500

安川香奠 3,500

〔注〕*カ氏:片假名の「カ」か、漢字の「力」か、不明。 *○:原文のまま。

六月十二日(日) 曇雨午後晴

午前来訪 東儀、有本、近藤逸五郎 Behn Welt 二冊貸

辻氏来

午後 北村氏謡曲會 余景清ワキ

夕方より西氏へ招かる筈断来、即ち北村氏に止り

八時帰 途訪廬不在

黒田来訪

〔出〕 北村會費、50

〔注〕*近藤逸五郎:訳詞家の近藤朔風(一八八〇~一九一五)。「菩提樹」「野ばら」「ローレライ」などの訳詞を手がける。

六月十三日(月) 雨曇

八時後出勤 文藝艸

午後四時帰途西の宮に空気枕(西の餞別)及襪求

夜桂舟来 画注文

夕方長松氏来

〔出〕 西宮買物 3,900

六月十四日(火) 晴午後雷雨又電

八時後出勤

午後一時 駒込吉祥寺内洞泉寺安川政次郎氏葬

儀に會す 三時帰

夕方番町散歩 元園町を訪 父上兄上と謡

三番 十時帰

六月十五日(水) 晴

八時後出勤

十二時後斬髪 後番町大橋方に赴く

*十七週年記念園遊會 余興講

談手品 蓄音器 夕食於富士見軒

八時帰宅、鳥谷部、石橋、根岸、上村及

宇野氏を伴ふ

〔出〕 莊司 、75

〔注〕 *十七週年記念園遊會：博文館の創業十七周年。

六月十六日(木) 雨正午大雨

早稲田出勤

十二時富士見軒二三好と會食 一時後帰

午後(永富女史来)

廣瀬己巳郎来 長松氏詩文集注文 山口勉

来恤兵演説會の件

後 山田秋柳来

夜木曜會 画葉、大勝利

〔出〕 富士見軒 3,30

〔注〕 *廣瀬己巳郎：出版人。磯澤水著『汽力織機』(明治三十四年)の奥付によれば、住所は「東京市京橋区木挽町九丁目三十一番地」。

六月十七日(金) 晴

八時後出勤

午後四時帰

夕方竹柴普吉来 夜断菜府會及朗読會

〔一行空き〕

常陸丸、佐渡丸等遭難詳報号外

〔注〕 *菜府會：未詳。 *常陸丸、佐渡丸等遭難：明治三十七年六月十五日、陸軍輸送船常陸丸・和泉丸・佐渡丸は、ロシアのウラジオストク艦隊の攻撃を受け、

常陸丸・和泉丸は沈没、佐渡丸も大破した。

六月十八日(土) 雨

九時出勤

午後一時半婦人教育會に赴く 有馬中佐海戦談

余 婦人の涙 五時帰

夜 無事

〔入〕 日露戦史半金 50,000

〔出〕 勇へ 25,000

六月十九日(日) 曇

午前来訪 麦人、和田英作、長松男、山本信吉

古我十郎 及 有本

午後一時出で 和田により画を見 尾崎氏ヲ訪ひ

又窪田氏留守見舞

*五時西彦に赴く、留別宴 清浦男、全夫人

大場区長、井口女史同席 九時帰

〔出〕 和田ニ 10,000

巴屋□半金

〔注〕 *清浦男：政治家の清浦奎吾(一八五〇—一九四〇)。明治三十五年に男爵。明治三十七年当時、第一次桂太郎内閣で農商務大臣。 *大場区長：日本橋区

長の大庭知栄か。

六月二十日(月) 曇

八時後出勤

午後四時帰途寄桂舟

夕方三ひと父上を訪ふ

夜 廬氏来

六月二十一日(火) 曇

八時後出勤

午後四時帰 本日教育研究會断りに遣はす

夕方 勇三二らと麹町散歩

夜 読書

六月二十二日(水) 曇

九時後出勤 其前新橋に木戸氏宇品行を送る 少尉

午後三時 廬采館 共に汽車にて*太平町二
津軽英麿氏を訪 亀戸散歩、汽車にて
鐘淵に至り 植半食事 土堤散歩
浅艸に出て 電車にて帰る

【注】 *字田：広島市南部。宇品港（広島港）は陸軍の輸送基地。 *太平町：本所
区の町名。 *津軽英麿：明治三十七年にドイツ・スイス留学から帰国し、早
大教授、学習院教授、韓国宮内府書記官、式部官などを歴任。大正七年から貴
族院議員（一八七二～一九一九）。 *植半：江戸時代から続く有名な料亭。

六月二十三日（木） 晴

欠勤 朝有本来原稿持参
朝訪廬、共に佐々木中佐を豫備病院二訪ふ
昨日退院のよし、去て東京地方裁判所に河島
判事を訪ひ 三好より委託の硯を渡す
十一時帰
午後 永富女史来 西彦太郎一寸来
夜木曜會

【注】 *豫備病院：東京陸軍予備病院。戦地から送還された傷病者を治療。

六月二十四日（金） 曇雨

八時半出勤
午後四時半華族會館に於ける東京府教
育會児童教育障害事項調査會
委員會に招かる。岡部子爵、加納子爵
晚餐後八時帰
不在中父上来訪

六月二十五日（土） 曇晴

朝六時新橋発 西氏の洋行を横濱に送る ロイド
ザイトリッツ、帰途横濱停車場ニ食事
十二時出勤
午後四時帰
夕食後 辻氏ヲ訪 帰途天神散歩
【出】 濱行食共 3,00

六月二十六日（日） 晴

午前 前田不二三来
倉知を訪ふ
午後一時 帝国大學時局講演會を傍聴
三上参次、田尻博士、佐々木中佐
六時帰途 元園町夕食 八時後帰
今夜三一発熱
【注】 *田尻博士：田尻福次郎（一八五〇～一九三三）。経済学者・法学者・官僚、の
ち東京市長。

六月二十七日（月） 晴*

八時後出勤 其前渡邊修二郎来
午後四時帰途斬髪
夕方高階来 300貸
八時 独乙公使の宴に招かる、米、佛外
交官、独土官、日本武官及
田中館、大森二博士 同席
【出】 高へ 3,00 十一時帰

【注】 *晴：「天気」欄の欄外上部に文字が見えるが未詳。 *田中館：物理学者の
田中館愛橘（一八五六～一九五二）。日露戦争時には、気球の軍事利用を研究。
*大森：地震学者の大森房吉（一八六八～一九三三）か。

六月二十八日（火） 晴

八時後出勤
午後四時帰
夜木村来
後佐々木信綱、令夫人来訪 源氏書類
取調

六月二十九日（水） 晴

八時半出勤
午後四時帰

夕方訪廬、不在即野口を訪ふ 八時帰
夜 近藤逸五郎来

〔入〕

120,000

文げい

15,000

尾崎立替

5,000

早稲田

15,000

〔出〕 勇へ

* 135,000

【注】*135,000…「3」の字は重ね書きのため不明確。「2」「6」の可能性も。

六月三十日(木) 晴

欠勤

*海士人形破損、風の為

朝辻氏来 有本来

廬来

午後 戸川紹介匹田来

艸日露戦史

四時独公使答礼、教育倶楽部晚餐會

菊池、穂積、北里三博士送別會に臨む

夜木曜會 画業「祭」

〔出〕 生田へ貸 10,000

【注】*海士…「土」の字は重ね書きのため不明確。まず「女」と書き、その上に「土」と書き改めたか。